

くらしの願い、まっすぐ市政に届けます

第18号

日本共産党市会議員

2021年
7月7日

井本 有一
☎080-3831
-3159



イモト 有 一 ニュース

6月議会で一般質問

2021年6月定例市議会が、6月4日から6月22日まで開かれました。私、井本は6月10日に一般質問をしました。



質問をする井本

生活保護の適切な運用を

コロナ禍により、生活相談に見える方が相次いでいます。生活保護制度の重要性はいよいよ増えています。しかし、現状では資産や自動車の保有など審査のハードルが高く、セーフティネットの役割を果たせて

いるとは言えません。厚生労働省からは事務連絡で繰り返し柔軟で弾力的な運用を求めています。

質問 年間生活保護相談件数がコロナ禍で年間46%増となっているが、申請件数は6%しか増えていないのはなぜか。

答え 住居確保給付金や社会福祉協議会で行っている緊急小口資金及び総合支援資金貸付金の情報提供を行うことで申請に至らなかったもの。

要望 生活に困って相談に来た人の多くが緊急小口資金などの貸付制度へ回されたということですが、資金貸付だと生活に困っている状態のうえに、返す当てが無いまま、借金をすることになってしまいます。

相談に来た人の状況に応じて、保護申請がいいのか資金貸付がいいのかを適切に判断していただきたい。

世界から貧困をなくす 17のゴールSDGs

SDGsっていったい目標を掲げているけど、なぜなのか？ 私たちはどうすればいいのか？ というのが質問の出发点でした。

人類は地球が再生可能な資源量の1.69倍の資源を使っているのだそうです。それも地域にバラつきがあり、分配が非効率・不平等なため、世界の人人々を貧困から解放することもできていないということです。

そこで提唱されたのが「持続可能な開発」という考え方です。今の人類社会は明らかに将来世代のニーズを奪っているわけで、やがて地球は持たなくなる、つまり「つづかない世界」です。SDGsは、この将来世代のニーズを奪うことなく、現代世代のニーズを充足させる「つづく世界に変えよう」という目標だということです。

質問 本市でSDGs未来都市計画が策定され、6つのゴールを優先的に取り組むとなっているが、17のゴールについて、全面的に取り組むべきではないか。

答え その他の目標についてもSDGsの理念に基づき取り組んでいく。

質問 国際的な評価機関から日本で遅れていると指摘されているゴール5エンダー平等、ゴール13気候変動への取り組みはどうなっているか。

答え シエンダー平等の取り組みを進めることは非常に重要で、啓発活

動や環境整備に取り組んでいく。気候変動については、温室効果ガス排出量を2026年までに9%削減の目標をもっており、達成するみこみとなっている。

要望 男女賃金格差問題や女性の非正規雇用解消など具体的に取り組んでもらいたい。

温室効果ガスの削減については、政府が2030年までに46%の削減を宣言している。本市でも早急に新たな目標を定め、取り組みを強化していただきたい。

コロナ感染の事業主に傷病手当を支給

国民健康保険加入者で、商店主など、事業主が新型コロナウイルスに感染した場合、傷病手当が支給されるように、6月議会にて条例が改正されました。

国保では、これまで事業主には傷病手当の支給が無く、PCR検査で陽性が出て休業した場合、次の日から収入が途絶えてしまうという問題があり、和歌山民主商工会や和歌山市社会保障推進協議会が尾花市長に要望書を提出し傷病手当の支給を求めているものです。

マイドキュメント

千葉県で飲酒運転のトラックが小学生の列に突っ込む痛ましい事故がありました。

飲酒運転は論外なのですが、歩道やガードレールの設置が以前から求められていた道路だったと聞き、危険個所の対策は後回しにしてはいけないと改めて思い知らされました。

車で通勤時にも、信号のない横断歩道が何か所あります。和歌山県は歩行者のいる横断歩道で車が止まらない率が全国的にも高いとのことでした。

自分が事故をしないことだけでなく、歩行者や自転車にも気を配る運転を心がけたいと思います。

